

家 目 名	看護理論			担当教員：○金城祥教、鈴木啓子、金城やす子 金城利雄、横川裕美子、永田美和子 伊礼優、清水かおり、大城凌子	
科目名 (英語)	Nursing Theory				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	6	研409 (金城)	授業の前後 30 分ずつ

#### 1. 授業の概要：

この科目では看護理論の批判的（クリティック）分析や看護実践への有用性に焦点をあてる。看護学の知識体系とその歴史的発展を踏まえ、理論、実践、研究との相互関連について評価を行う。また看護実践のための科学的知識の開発に関する多様な方法について探求し、より高度な看護実践に向けた知識を産出する能力を修得する。授業の展開については学習者のプレゼンテーションを中心に参加型の授業とする。

#### 2. 到達目標：

- (1) 看護学の歴史的発展と看護理論の変遷について理解する。
- (2) 専門職として看護における「実践と理論」の相補性について理解する。
- (3) 主な看護理論（家）とその概念を説明・分析し、臨床実践や教育・研究への適用について検討する。

#### 3. 授業の計画

第 1 回	10月 日	看護学の発展と看護理論の変遷	理論の学び方	(金城祥教)
第 2 回	10月 日	看護理論とは何か	理論の範囲、	(金城祥教)
第 3 回	10月 日	看護理論の分析と評価法	(看護理論の類型)	(金城祥教)
第 4 回	10月 日	F. ナイチンゲール看護理論		(大城凌子)
第 5 回	10月 日	レイニンガー看護理論		(横川裕美子)
第 6 回	10月 日	ペプロウ看護理論		(金城祥教)
第 7 回	10月 日	小児期の発達理論		(金城やす子)
第 8 回	11日 日	青年期の発達理論		(伊礼優)
第 9 回	11月 日	オレムの看護理論		(鈴木啓子)
第10回	11月 日	オレムアンダーウッドセルフケア理論		(鈴木啓子)
第11回	11月 日	老年期の発達理論		(永田美和子)
第12回	12月 日	障害受容の理論		(金城利雄)
第13回	11月 日	ケアリング理論 その1		(清水かおり)
第14回	11月 日	ケアリング理論 その2		(清水かおり)
第15週	12月10日	看護理論と看護実践		(金城祥教)

#### 4. テキスト：特に指定しないが、下記の文献を活用するため事前抄読を課すこともある。

- ① F. ナイチンゲール：看護覚え書，現代社。
- ② H. ペプロウ：人間関係の看護論，医学書院。
- ③ オレム看護論—看護実践における基本概念 ドロセア E. オレム 医学書院
- ④ ガートルートトレス 梶尾京子、田村やよひ 高田早苗監訳 看護理論と看護過程 医学書院
- ⑤ 看護理論家とその業績 都留伸子 監訳 医学書院
- ⑥ 看護実践に活かす中範囲理論 野川道子 編集 メジカルフレンド社
- ⑦ フォーセット 看護理論の分析と評価 廣川書店

#### 5. 準備学習：

看護論を読み、臨床における看護実践の分析、理論の適応について考えて授業に臨む。また、プレゼンテーションはクリティカルシンキングの方法をとる。

#### 6. 成績評価の方法：

- ・ 授業に対する参画（看護論をクリティックする力、プレゼンテーション、討論への積極的参加）30点
- ・ 課題レポート（一つの看護論をクリティックする。臨床での看護実践と結びつけ看護論を批評する）  
各単元で担当教員から課題を出すか？ ) 70点
- ・ 合 計 100点満点

#### 7. 履修の条件：必修科目である。必ず履修すること。

#### 8. その他：

自己の経験的知識との照合、新たな発見などポートフォリオとして整理すること

科目名	看護学研究方法論			担当教員：○金城利雄 鈴木啓子																																														
科目名(英語)	Introduction to Nursing Research			金城やす子 玉井なおみ 山浦晴男																																														
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー																																													
2	1	前期	6	研 405 (金城利雄) 看研 17 (鈴木啓子) 総研 1 (金城やす子) 看研 5 (玉井なおみ)	月曜日・木曜日 7限 火曜日・金曜日 7限																																													
<p>1. 授業の概要：</p> <p>看護における研究の意義と特徴を理解し、研究における理論・概念枠組み、研究デザイン、方法について理解を深め、量的研究、質的研究の原則、特徴を探究する。倫理審査を受ける方法も修得し、研究論文作成の一連の研究プロセスを理解する。</p> <p>2. 到達目標：</p> <p>看護における研究の意義を理解し、看護実践の発展に貢献する研究方法論を学び、専門演習、特別研究を実施するための基盤を作ると共に、今後の研究活動に活用できることを目標とする。</p> <p>3. 授業の計画と内容</p> <table border="0"> <tr> <td>第 1 週</td> <td>看護研究の意義と動向、特徴</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 2 週</td> <td>看護研究の基本的なプロセス</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 3 週</td> <td>研究課題の吟味について</td> <td>(金城利雄)</td> </tr> <tr> <td>第 4 週</td> <td>系統的文献検索の方法</td> <td>(金城やす子)</td> </tr> <tr> <td>第 5 週</td> <td>系統的文献検索の実際</td> <td>(金城やす子)</td> </tr> <tr> <td>第 6 週</td> <td>研究課題と研究デザイン</td> <td>(鈴木啓子)</td> </tr> <tr> <td>第 7 週</td> <td>質的研究のプロセス</td> <td>(山浦晴男)</td> </tr> <tr> <td>第 8 週</td> <td>質的研究のプロセス</td> <td>(山浦晴男)</td> </tr> <tr> <td>第 9 週</td> <td>量的研究のプロセス</td> <td>(金城やす子)</td> </tr> <tr> <td>第 10 週</td> <td>量的研究と統計的解析</td> <td>(金城やす子)</td> </tr> <tr> <td>第 11 週</td> <td>研究倫理と研究者の責務</td> <td>(鈴木啓子)</td> </tr> <tr> <td>第 12 週</td> <td>研究計画書の作成に関して</td> <td>(玉井なおみ)</td> </tr> <tr> <td>第 13 週</td> <td>研究計画書に関する討議</td> <td>(玉井なおみ)</td> </tr> <tr> <td>第 14 週</td> <td>原著論文のまとめ方</td> <td>(玉井なおみ)</td> </tr> <tr> <td>第 15 週</td> <td>原著論文のまとめ方 学会などの発表に関して</td> <td>(玉井なおみ)</td> </tr> </table> <p>4. テキスト：</p> <p>参考文献：「看護研究 原理と方法」、監訳 近藤潤子，医学書院， 「APA 論文作成マニュアル」APA,江藤裕之他訳，医学書院</p> <p>5. 準備学習：毎回，課題を提供するので，次回までに準備すること。</p> <p>6. 成績評価の方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動状況 50 点（評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ）</li> <li>・レポートの内容 50 点（評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ）</li> <li>・合計 100 点満点</li> </ul> <p>7. 履修の条件：特になし</p> <p>8. その他： 必修科目であり，修士論文作成のための基本になる科目のため，学生主体でプレゼンテーションを重ね，専門演習，特別研究に継続させてほしい。</p>						第 1 週	看護研究の意義と動向、特徴	(金城利雄)	第 2 週	看護研究の基本的なプロセス	(金城利雄)	第 3 週	研究課題の吟味について	(金城利雄)	第 4 週	系統的文献検索の方法	(金城やす子)	第 5 週	系統的文献検索の実際	(金城やす子)	第 6 週	研究課題と研究デザイン	(鈴木啓子)	第 7 週	質的研究のプロセス	(山浦晴男)	第 8 週	質的研究のプロセス	(山浦晴男)	第 9 週	量的研究のプロセス	(金城やす子)	第 10 週	量的研究と統計的解析	(金城やす子)	第 11 週	研究倫理と研究者の責務	(鈴木啓子)	第 12 週	研究計画書の作成に関して	(玉井なおみ)	第 13 週	研究計画書に関する討議	(玉井なおみ)	第 14 週	原著論文のまとめ方	(玉井なおみ)	第 15 週	原著論文のまとめ方 学会などの発表に関して	(玉井なおみ)
第 1 週	看護研究の意義と動向、特徴	(金城利雄)																																																
第 2 週	看護研究の基本的なプロセス	(金城利雄)																																																
第 3 週	研究課題の吟味について	(金城利雄)																																																
第 4 週	系統的文献検索の方法	(金城やす子)																																																
第 5 週	系統的文献検索の実際	(金城やす子)																																																
第 6 週	研究課題と研究デザイン	(鈴木啓子)																																																
第 7 週	質的研究のプロセス	(山浦晴男)																																																
第 8 週	質的研究のプロセス	(山浦晴男)																																																
第 9 週	量的研究のプロセス	(金城やす子)																																																
第 10 週	量的研究と統計的解析	(金城やす子)																																																
第 11 週	研究倫理と研究者の責務	(鈴木啓子)																																																
第 12 週	研究計画書の作成に関して	(玉井なおみ)																																																
第 13 週	研究計画書に関する討議	(玉井なおみ)																																																
第 14 週	原著論文のまとめ方	(玉井なおみ)																																																
第 15 週	原著論文のまとめ方 学会などの発表に関して	(玉井なおみ)																																																

科目名	看護管理学			担当教員：○金城祥教、鈴木啓子、朴 在鎬、 名城一枝、紙屋克子、船戸高樹	
科目名(英語)	Nursing Administration				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2～3	409 研究室(金城祥教) 看研 17(鈴木啓子) 学科事務室(非常勤講師控室) (朴、紙屋、船戸)	授業の前後 30 分ずつ 授業の前後 30 分ずつ 授業の前後 30 分ずつ

### 1. 授業の概要：

保健看護サービスシステムの現状および看護職が直面している課題を把握し、現場の変革を推進するために必要な体系的知識・技術を有効に活用できる能力を養う。

患者ケアシステムと看護専門職の状況対応リーダーシップについて、事例を通して学ぶ。さらに保健医療の質保証に関するシステムおよびリスクマネジメントの実際について、現場の管理者を交えながら理解を深める。

現状を変革するための戦略・戦術、変革のプロセスを理解し、患者ケア提供システムの改善策などについて検討する。看護専門職の役割拡大と専門分化の方向性を探索し、看護職の人材育成・キャリア開発への効果的なサポートシステムについて提言する。

### 2. 到達目標：

- ①看護の管理運営についての基礎的な理論を理解する。
- ②戦略的リーダーシップについての基礎的な理論を理解する。
- ③病院経営と看護部の役割を理解する。

### 3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースガイド (看護管理者の新たな役割) (金城祥教) コンピテンシーモデルによる看護実践能力評価		
第 2 週	看護現場における研究	(山田みよ子)	北部地区医師会看護専門学校
第 3 週	看護現場からの看護管理学	(下地孝子)	琉球大学付属病院
第 4 週	看護管理における研究	(柴山順子)	北部地区医師会病院
第 5 週	病院経営と看護部の役割	(紙屋克子)	公開授業
第 6 週	看護師のキャリア開発を支援する看護管理	(紙屋克子)	公開授業 【課題レポ】
第 7 週	マーケティングの基本概念	(船戸高樹)	公開授業
第 8 週	医療サービス・マーケティングの展開	(船戸高樹)	公開授業 【課題レポ】
第 9 週	目標管理の技法としてのカードメソッド	(金城祥教)	
第 10 週		(金城祥教)	【課題レポ】
第 11 週	医療安全と看護管理 (1)	(名城一枝)	
第 12 週	医療安全と看護管理 (2)	(鈴木啓子)	【課題レポ】
第 13 週	組織の効率化とリーダーシップ (SYMLOG 分析とコーチング)	(朴 在鎬)	【課題レポ】
第 14 週	人間関係構築のスキル開発 (SYMLOG 分析とコーチング)	(朴 在鎬)	
第 15 週	振り返り振り返りと自己評価—他者評価	(金城祥教)	

### 4. テキスト： 特に指定しない

- 参考文献： ①陣田泰子「看護現場学の方法と成果—いのちの学びのマネジメント」医学書院  
②紙屋克子「私の看護ノート」医学書院  
③紙屋克子 住吉蝶子 私たちの看護管理実践 医学書院

### 5. 準備学習：

### 6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 25% (評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容各 15×5 人点：各講師からの課題レポート (課題レポ) と表示している講師  
テーマとの整合性、論理的文章、表現の適切性 文献活用の適切性など
- ・合計 100 点満点

### 7. 履修の条件：

科目名	コンサルテーション論			担当教員： 宇佐美 しおり	
科目名(英語)	Consultation				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	看護学科事務室 (非常勤講師控室)	授業の前後 30 分ずつ

### 1. 授業の概要

保健医療チームの中でのコンサルテーションについて、する側と受ける側から理解できるように、理論と具体的な事例を通して方法論を学ぶ。また、コンサルテーションを受ける看護師としての自己研鑽のあり方を学ぶ。

### 2. 到達目標

- ・コンサルテーションの方法について理解できる。
- ・看護実践にとってのコンサルテーションの意義について理解することができる。

### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 コンサルテーションの定義およびその歴史
- 第 2 週 コンサルテーションのタイプ
- 第 3 週 コンサルテーションの実践モデル
- 第 4 週 コンサルテーションのプロセス
- 第 5 週 コンサルタントの関係
- 第 6 週 ケース・コンサルテーションとコンサルティ中心のケース・コンサルテーション
- 第 7 週 管理に関するコンサルテーション
- 第 8 週 組織へのコンサルテーション
- 第 9 週 グループ・コンサルテーション
- 第 10 週 倫理的問題に対するコンサルテーション
- 第 11 週 コンサルテーションの評価
- 第 12 週 コンサルテーションと他の治療との違い
- 第 13 週 演習 (1)
- 第 14 週 演習 (2)
- 第 15 週 まとめ

### 4. テキスト・参考文献

テキスト：

- ① G.Lippitt & R.Lippitt: The Consulting Process in Action, Second Edition, Pfeiffer, 1986
- ② 宇佐美しおり・野末聖香(2009)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法，(社)日本看護協会出版会

### 5. 準備学習

レポート課題の提出

### 6. 成績評価の方法

レポート（状況の正確な記述と分析力，課題設定・アセスメントの適切さと介入方法の適切さ） 20 点  
講義・演習への参画度（ロールプレイなどでのコミットメント，プレゼンテーションの適切さ） 80 点  
合計 100 点で評価する

### 7. 履修の条件

ディスカッション形式の授業を展開するため，各自で問題事例をまとめ，レポートしておくこと。

### 8. その他

特になし

科目名	国際看護学			担当教員：横川 裕美子	
科目名(英語)	International Nursing				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	2	前期	2～3	研究室 403	授業内で提示する

### 1. 授業の概要：

国際保健医療および看護職による国際協力活動や研究について理解することを目的に、異文化理解と国際協力活動に関する講義を行なう。国や地域を越えた自然環境の変化や災害、貧困、健康問題が増加する社会の中で、看護職の役割が拡大してきていることをふまえて、国内・国外にかかわらず医療・保健・看護の現状を理解し、人々の健康を維持・増進するための看護の課題について展望する。また異なる文化背景をもつ人々の多様なニーズを尊重した看護について考察する。

### 2. 到達目標：

- 1) 国や地域における健康課題、あるいは共通した新しい健康課題について理解する。
- 2) 国際協力活動の基本的な理念や開発目標を理解し、国や地域で求められる看護の機能を考察する。
- 3) 多様な文化背景をもつ対象のニーズを理解して尊重するための理論をもとに看護の展開を検討する。
- 4) 多文化共生社会における看護職の役割と可能性について考察し実践することができる。

### 3. 授業の計画と内容

- 第 1 週 国際看護学の概念
- 第 2 週 国や地域における健康課題と看護①
- 第 3 週 国や地域における健康課題と看護②
- 第 4 週 国際協力活動の基本的な理念・開発目標
- 第 5 週 文化を尊重した看護理論①
- 第 6 週 文化を尊重した看護理論②
- 第 7 週 文化を尊重した看護理論③
- 第 8 週 看護の国際協力活動①
- 第 9 週 看護の国際協力活動②
- 第 10 週 看護の国際協力活動③
- 第 11 週 日本に居住する外国人に対する看護の役割①
- 第 12 週 日本に居住する外国人に対する看護の役割②
- 第 13 週 日本における民族の尊厳を守る看護のありかた
- 第 14 週 海外に居住する日本人に対する看護
- 第 15 週 多文化共生社会における看護職の役割

### 4. テキスト： レイニンガー看護論「文化ケアの多様性と普遍性」医学書院

### 5. 準備学習：課題を提示するので、準備すること

### 6. 成績評価の方法：

- ・授業中における討議への積極的参加、予習、プレゼンテーション 50点
  - ・最終レポート 50点
- 合 計 100点満点

### 7. 履修の条件：なし

### 8. その他：

授業科目名	看護技術科学論			担当教員： 紙屋 克子	
科目名(英語)	Nursing Scientific Technology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	4~6	学科事務室 (非常勤講師控室)	授業の前後 30 分ずつ

### 1. 授業の概要

社会の変化と医療・看護の潮流を概観し、医療の高度化、健康に対する社会の価値観の変化に対応し得る看護ケア質向上を目的として、専門的な看護実践能力としての「生活の再構築に向けた援助技術」について検討する。あわせて看護において Arts and Sciences と評価される看護技術の開発について講義と演習を通して討議する。

### 2. 到達目標

- 1) 人間の生活と生活再構築にむけた援助技術とは何かがわかる。
- 2) 看護実践の経験知からエビデンスを確立する方策について考察できる。
- 3) バイオメカニズムに基づく看護援助技術を習得する。

### 3. 授業の計画と内容

- |        |   |
|--------|---|
| 第 1 週  | Orientation                               |
| 第 2 週  | 看護技術概論                                    |
| 第 3 週  | 看護技術の変遷と技術の時代的意義                          |
| 第 4 週  | 看護の専門性と看護技術                               |
| 第 5 週  | 看護技術の経験知からエビデンスの確立                        |
| 第 6 週  | 看護学教育における生活支援技術の位置づけ                      |
| 第 7 週  | 臨床看護領域における Nursing Biomechanics の位置づけ     |
| 第 8 週  | 臨床看護における Nursing Biomechanics の実践例・演習 (1) |
| 第 9 週  | 臨床看護における Nursing Biomechanics の実践例・演習 (2) |
| 第 10 週 | 臨床看護における Nursing Biomechanics の実践例・演習 (3) |
| 第 11 週 | 臨床看護における Nursing Biomechanics の発展例・演習 (4) |
| 第 12 週 | 臨床看護における Nursing Biomechanics の発展         |
| 第 13 週 | 日常生活の再構築と看護技術                             |
| 第 14 週 | 看護技術の実践と医療法                               |
| 第 15 週 | 看護技術の課題と展望                                |

### 4. テキスト

- |              |   |                  |
|--------------|---|------------------|
| 紙屋克子 著       | 1) ナーシング・バイオメカニクスに基づく自立のための生活援助技術 (第3版) |                  |
|              | 2) 身体調整のための看護エクササイズ                     | ナーシングサイエンスアカデミー社 |
| 大谷素明 監訳      | 3) クリニカルマッサージ                           | 医道の日本社           |
| 肥田岳彦・山田敬喜 監修 | 4) 筋肉の名前としくみ事典                          | 成美社              |

### 5. 準備学習 レポートの提出

### 6. 成績評価の方法

- レポート 60 点 (評価視点: テーマとの整合性, 論理的な文章構成, 言語表現の適切さ, 文献活用の適切さ)  
講義への参加度 40 点 (評価視点: 授業へのコミットメント, 問題発見および解決への努力, プレゼンテーションの適切さ) 合計 100 点満点で評価する。

### 7. 履修の条件 特になし

### 8. その他 特になし

科目名	国際保健学			担当教員：玉城 英彦	
科目名(英語)	Global Health				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
1	1	後期	2～3	看護学科事務室(非常勤講師控)	講義の前後30分ずつ

1. 授業の概要：

本科目では、「健康とは何か」、それを阻害する諸要因を分析し、それを解決するための方法を研究する国際保健学の基本を理解する。また国際協力による健康水準の向上や保健医療政策の具体例について、その現状や今後の課題を学習する。

さらに、グローバルな保健統計を用いた、現状分析やWHOの活動、講師の個人的なプロジェクトなどを通じて国際保健の実践についても触れる。

2. 到達目標

- ①健康について学ぶ。
- ②WHOの組織と活動を理解する。
- ③わが国のODAについて学ぶ。

3. 授業の計画と内容

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週 健康とは
- 第3週 WHOの組織と活動
- 第4週 日本のODA
- 第5週 顧みられない熱帯病
- 第6週 発展途上国での国際保健活動(事例)
- 第7週 健康権とは
- 第8週 まとめ

4. テキスト：○ 玉城英彦『世界へ翔ぶ—国連機関をめざすあなたへ』, 溪流社2009年

参考文献：

- 玉城英彦『社会が病気をつくる - 「持続可能な未来」のために』, 角川学術出版2010年
- 玉城英彦『ともに生きるためのエイズ—当事者と社会が克服していくために』, 溪流社2012年

5. 準備学習：

6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と授業への参画度 20点 (積極的な態度, 発表態度)
- ・終了レポートの内容 20点 (各回のポイントを理解していること)
- ・試験 60点 (正解率)
- ・合計 100点満点

7. 履修の条件： 特になし

8. その他：

科目名	ヘルスプロモーション論			担当教員：高瀬 幸一	
科目名(英語)	Health Promotion				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3	研 203 (高瀬)	授業の前後 30 分ずつ 火曜 3, 4 限 授業の前後 30 分ずつ

1. 授業の概要：ヘルスプロモーション・ウエルネス理念の起こりと歴史的背景，健康観についての歴史的変遷，健康政策への活用と評価の視点を講じ，ヘルスプロモーション・ウエルネス理念を理解した健康政策立案への基本的能力を習得する。さらに，運動生理学の観点から生活習慣病予防の具体的な知見や方法についても探究する。これらの基礎理論を用いて実際の看護の場におけるヘルスプロモーションを探究する。

2. 到達目標：

- (1) ヘルスプロモーション・ウエルネス理念について理解することができる。
- (2) 健康観の歴史的変遷について理解することができる。
- (3) 諸外国の健康政策の理解と健康政策立案の基本的能力を習得する。
- (4) 世界と日本の健康に関する現状を理解することができる。
- (5) 健康増進・抗加齢に関する生理学的知識を習得することができる。
- (6) 健康増進に効果的な運動の実施法について理解することができる。
- (7) 健康基礎理論を用いて看護の場におけるヘルスプロモーションを試行することができる。

3. 授業の計画と内容

第 1 週	健康とその意義
第 2 週	健康観の変遷
第 3 週	ウエルネス理念の起こりと歴史的変遷
第 4 週	WHO のヘルスプロモーション・ムーブメント
第 5 週	健康政策の評価の視点と活用
第 6 週	健康政策立案の基本と地域づくり
第 7 週	沖縄県における健康問題の現状－長野県との比較から－
第 8 週	生理学からみた QOL
第 9 週	身体活動における生理学的メカニズムについて
第 10 週	生活習慣病予防と運動実践について
第 11 週	人間の保健行動と特性<個・集団・地域>
第 12 週	行動変容をサポートする健康教育，保健指導<個人・集団・地域>
第 13 週	健康教育とポピュレーションアプローチ
第 14 週	QOL 向上を目指したプリシード・プロシードモデルによる地域・行政活動
第 15 週	生活習慣病予防と医療費適正化－糖尿病を事例に考究する－

4. テキスト：健康行動と健康教育－理論，研究，実践－，医学書院 4200 円  
 中原凱文ほか 健康科学としての運動生理学 文化書房博文社 2100 円  
 監訳高野順子他 ヘルスプロモーション実践の変革－新たな看護実践に挑む 日本看護協会出版会 4800 円  
 参考文献：身体活動の健康心理学，スチュワート J.H.ビドル，ナネット・ムツリ著，大修館書店  
 ケースメソッドで学ぶヘルスプロモーションの政策開発－政策化・施策化のセンスと技術－，石井敏弘，他編，ライフ・サイエンス・センター，3,900 円

5. 準備学習：十分な予習と復習を行うこと。

6. 成績評価の方法：

- ・事前の資料準備と授業への参画度  
(評価視点：授業へのコミットメント，問題発見および解決への努力，プレゼンテーションの適切さ)
- ・終了レポートの内容  
(評価視点：テーマとの整合性，論理的な文章構成，言語表現の適切さ，文献活用の適切さ)
- ・合計

7. 履修の条件：特になし

8. その他：

科目名	包括的健康アセスメント			担当教員：○大城 凌子・鈴木 啓子・永田 美和子 藤内 美保	
科目名(英語)	Comprehensive Health Assessment				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
1	2	前期	2~3	看研 131 (大城) 看研 17 (鈴木) 看護学科事務室 (非常勤講師控室) (藤内)	月曜日・木曜日 7限 火曜日・金曜日 7限 授業の前後 30分ずつ

### 1. 授業の概要：

看護モデルを基盤として身体・心理・社会的側面を包括的にとらえる高度なアセスメント能力を養う。身体面としてのフィジカル・アセスメント(Physical Assessment)強化を中心に、心理社会面として心理社会的アセスメント (MSE : Mental Status Examination) を、病態生理学を事前あるいは同時履修を前提として、これらと看護診断を統合した講義、演習によって習得する。

### 2. 到達目標：

- ・身体面としてのフィジカル・アセスメントについて理解できる。
- ・心理社会面として心理社会的アセスメントについて理解できる。
- ・病態生理学と看護診断を統合した包括的健康アセスメントについて理解できる。

### 3. 授業の計画と内容

第 1 週	コースオリエンテーション	ヘルスアセスメントの概念	(大城凌子・藤内美保)
第 2 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本	(藤内美保)
第 3 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本	(藤内美保)
第 4 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本	(藤内美保)
第 5 週	フィジカル・イグザミネーション	アセスメントの基本	(藤内美保)
第 6 週	心理社会的アセスメントの基本		(鈴木啓子)
第 7 週	心理社会的アセスメントの基本		(鈴木啓子)
第 8 週	家族機能のアセスメント		(鈴木啓子)
第 9 週	シュミレーターを用いた指導		(大城凌子)
第 10 週	模擬患者参加型演習		(担当者全員)
第 11 週	模擬患者参加型演習		(担当者全員)
第 12 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント		(担当者全員)
第 13 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント		(担当者全員)
第 14 週	臨地における実践的ヘルスアセスメント		(担当者全員)
第 15 週	まとめ		(大城凌子・藤内美保)

### 4. テキスト：Lynn S.Bickley 著 メディカル・サイエンス・インターナショナルのベイツ診察法

Bates'Guide to Physical Examination and History taking 9th Edition

- 参考文献： 1. 野末聖香編著 (2004)「リエゾン精神看護—患者ケアとナース支援のために」医歯薬出版株式会社  
2. G.W.Start et.al.(2005) "Principles and Practice of Psychiatric Nursing"8th edition,MOSBY.  
(安保寛明・宮本有紀監訳「看護学名著シリーズ—精神科看護—原理と実践」原著第 8 版)  
3. 森山美知子編集「ファミリーナーシングプラクティス」医学書院

### 5. 準備学習：事前に提示した資料に基づいた準備をして授業や演習に臨むこと。

### 6. 成績評価の方法：

- ・活動状況 30 点 (評価視点：授業へのコミットメント、問題発見および解決への努力、プレゼンテーションの適切さ)
- ・レポートの内容 30 点 (評価視点：テーマとの整合性、論理的な文章構成、言語表現の適切さ、文献活用の適切さ)
- ・試験 40 点 (各単元の理解度、到達目標の充足度)
- ・合計 100 点満点

### 7. 履修の条件：病態生理学をすでに履修か同時履修を前提とする。

### 8. その他：学外での臨地の演習も含むため、履修可能な学習条件を整えること。

科目名	病態生理学			担当教員：砂川 昌範	
科目名(英語)	Pathophysiology				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録予定人数	研究室	オフィスアワー
2	1	後期	2~3		火・木 16:30-17:30

### 1. 授業の概要：

この授業では、臨床医学で頻回に遭遇する疾病を教材として、病態を生理学的アプローチから理解し、治療について学ぶ。

### 2. 到達目標：

臨床看護で指導的役割を担える人材を育成することを目標にする。

- 1) 自ら論理的に病態を理解・学習できる知識基盤を構築する。
- 2) 病態に関する正しい情報を患者やその家族に説明し、最適な判断の手助けとなれる人材。
- 3) 健康障害があっても、その影響を最小限にする際の専門的判断の知識基盤を構築する。

### 3. 授業の計画と内容

- 第1回 病態生理学の概要
- 第2回 恒常性維持
- 第3回 循環器系の疾患1
- 第4回 循環器系の疾患2
- 第5回 循環器系の疾患3
- 第6回 循環器系の疾患4
- 第7回 呼吸器系の疾患1
- 第8回 呼吸器系の疾患2
- 第9回 呼吸器系の疾患3
- 第10回 呼吸器系の疾患4
- 第11回 体液と電解質バランスの破綻1
- 第12回 体液と電解質バランスの破綻2
- 第13回 症例提示(ケースレポート)1
- 第14回 症例提示(ケースレポート)2
- 第15回 症例提示(ケースレポート)3

### 4. テキスト・参考文献

- ①人体機能生理学：杉晴夫，等(共著)，南江堂(第4版)，2004年
- ②標準生理学：本郷利憲，等(監修)，医学書院(第6版)，2005年
- ③からだの異常 病態生理学Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ：北本清，等(共著)，日本看護協会出版会，2003年
- ④疾病の成り立ちと回復の促進(第3巻，第4巻) 疾病各論：下 正宗(編)，医学書院，2006年
- ⑤Physiology and Pathophysiology of the heart (Third edition), Nicholas Sperelakis, Kluwer Academic Publishers (KAP), 1995
- ⑥Textbook of Medical Physiology, Guyton & Hall, 2006
- ⑦Clinical 生体機能学—生理学から症状がわかる—：當瀬規嗣，南山堂，2005
- ⑧Pathophysiology: The biologic basis for disease in adults and children. Kathryn L McCance & Sue E. Huether, Mosby 1997

### 5. 準備学習：講義タイトルに関連する論文を1編読んできてレポートすること。

### 6. 成績評価の方法：授業への討議の参加，レポート，試験により総合的に評価する。

- |                  |        |
|------------------|--------|
| ・事前の資料準備と授業への参画度 | 20点    |
| ・レポート内容          | 20点    |
| ・ケースレポート発表       | 20点    |
| ・試験              | 40点    |
| ・合計              | 100点満点 |

### 7. 履修の条件：3分の2以上の講義出席をもって期末試験を受験できるものとする。

### 8. その他

科目名	英語講読			担当教員： 渡慶次 正則	
科目名(英語)	Reading English Texts				
単位数	受講年次	開講予定学期	登録人数	研究室	オフィスアワー
2	1	前期	5~6	512	講義の前後 30 分ずつ

### 1. 授業の概要

英文で書かれた看護の専門誌・論文を講読する力を養うことを目的とする。そのために、一般の新聞、雑誌を読みながら、文法の解説も加えて基礎読解力を高めたうえで、専門誌の看護の英語論文を講読する。

### 2. 到達目標

新聞、雑誌を辞書なしで読み、おおまかな意味をつかむことができる。

看護の専門雑誌を辞書などを利用して読み、正確な意味をつかむことができる。

### 3. 授業の計画と内容

第 1 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 2 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 3 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 4 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 5 週	医療に関連した一般的な記事の講読	The Japan times 等
第 6 週	看護の専門文献の講読	American Journal of Nursing 等
第 7 週	看護の専門文献の講読	American Journal of Nursing 等
第 8 週	看護の専門文献の講読	American Journal of Nursing 等
第 9 週	看護の専門文献の講読	International Council of Nurses 等
第 10 週	看護の専門文献の講読	International Council of Nurses 等
第 11 週	看護の専門文献の講読	International Council of Nurses 等
第 12 週	論文の抄録・本文の構成について	
第 13 週	論文の抄録・本文の構成について	
第 14 週	英語論文作成について	
第 15 週	英語論文作成について	

### 4. テキスト・参考文献

「看護英語読解 15 のポイント」園城寺康子他，メジカルビュー社

### 5. 準備学習：次回の課題として与えられた文献を読んで、予習をして授業に臨むこと。

### 6. 成績評価の方法

授業中の貢献度	50 点
レポート	50 点
合計 100 点満点	

### 7. 履修の条件： 特になし

### 8. その他： 英語の読解力を高めるには、とにかく多くの英語の文章を読むことである。文法についても、しっかり確認しながら正確に英文を読むこと。